



2020年7月28日

各位

会社名 日産自動車株式会社
代表者名 代表執行役社長兼最高経営責任者
内田 誠
(コード番号 7201 東証第1部)
問合せ先 IR部 常務執行役員 辰巳 剛
(TEL 045-523-5523)

業績予想及び配当予想に関するお知らせ

2020年5月28日の2020年3月期決算発表時において未定としておりました、2021年3月期通期の連結業績予想及び配当予想について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業績予想について

	売上高	営業利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	—	—	—	—
今回発表予想(B)	7,800,000	△470,000	△670,000	△171.23
増減額(B-A)	—	—	—	—
増減率	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	9,878,866	△40,469	△671,216	△171.54

<公表の理由>

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、全ての市場において全体需要が前年を下回り、グローバルでは前年比16%減の7,204万台になると予想しています。弊社の2020年度の販売台数は、ほぼ全体需要予測並みの、前年比16.3%減の412万5千台を見込んでおります。

持分法適用会社である中国を除いた今年度の販売台数は、前年比21.7%減の見通しとなっていることを反映し、連結売上高は前年比21%減の7兆8,000億円と予想しております。連結営業損失は4,700億円の見通しです。

前年からの主な増減要因は以下のとおりです。

- 為替はドル円レートを中心に400億円の減益要因となっています。
- 新型コロナウイルス感染拡大に伴う、全体需要の落ち込みによる新車の台数・構成の悪化に加え、部品販売や連結販売会社の収益悪化により、4,250億円の減益を見込んでいます。
- 貸倒引当金計上を含む販売金融事業の収益悪化と、リマーケティング費用と呼ぶ米国を中心としたリース車両の残存価値低下に伴う費用は、合わせて850億円の減益要因とな

っています。

- モノづくり・固定費・その他は、生産の減少に伴う稼働率の低下によって効率性が悪化した生産変動費や商品性向上費用の増加を、固定費や購買コストの削減による増益でオフセットし、1,205億円の増益要因となる見通しです。

なお、5月に発表した2020年度に2018年度対比で3,000億円の固定費を削減する取り組みは計画通り進んでおり、今年度も減価償却費や広告宣伝費、一般管理費を中心に、1,500億円を超える削減を実行します。

持分法投資損益の悪化や昨年度末に計上できなかった事業構造改革費用も織り込んでいることから、当期純損失は6,700億円となる見込みです。

2. 2021年3月期通期の配当予想の修正

	年間配当金		
	第2四半期末	期 末	合 計
前回発表予想 (2020年5月28日公表)	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —
今回発表予想	0.00	0.00	0.00
当期実績	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	10.00	0.00	10.00

<公表の理由>

今年度は、収益力の向上に向けた事業構造改革に取り組んでいる最中であることに加え、新型コロナウイルス感染拡大による大きな影響もあり、収益、フリーキャッシュフローともに非常に厳しい一年になるため、お支払いは見送らせていただく見通しです。一刻も早く、安定的かつサステナブルな株主還元を再開できるよう、全社を挙げて収益改善に向け事業構造改革に取り組んでまいり所存です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいており、リスクと不確実性を含んでいます。従いまして、今後の当社グループの事業領域を取りまく経済情勢、市場の動向、為替の変動等により、実際の業績が現状の見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

以 上